竹富町

「ぱいぬ島共生意識・要求アンケート調査」

結果報告 ～第１弾～

報告：竹富町福祉支援課　協力：一般社団法人地域医療・福祉研究所

竹富町にずっと住み続けたい（85.9%）その一方で・・・
最大の不安は、病気や介護で家族の負担が増えること（87.2%）

竹富町の介護・福祉に関する施策や、計画を作成するために、２０１８年10～12月にかけて竹富町の40歳以上（介護保険被保険者）全員を対象にした「医療・福祉と暮らしの意識・要求調査」を行ないました。今号は、その概要をお知らせします。

アンケートの記入説明会、報告会を開催

アンケートは、島に住み続けるために必要な福祉サービスの実現には何が必要かなど、住民の意識調査を高めることを目的に、21カ所の公民館等でアンケートの設問の内容を説明しながら記入していただきました。都合により当日参加できなかった方には職場やご家庭で記入していただくなど、多くの皆さまから回答を得ることができました。

結果を分析し、３月４～15日まで７島（地域）でアンケート結果の報告会と意見交換会を行いました。報告会・意見交換会には、アンケートに協力いただいた方、医療・福祉関係者、区長、公民館長、民生委員など１００人余りが参加し、それぞれアンケートの感想や島（地域）に必要な福祉についての意見を交換しました。

美原・由布島集団記入会

小浜島アンケート報告意見交換会

今回のアンケート調査の結果を分析し、意見交換会で明らかになったことをまとめてみました。

「ぱいぬ島共生調査」で分かったこと

①各島（地域）により福祉要求に違いがある

一町多島という他の自治体にはみられない特殊な条件の本町において、島々の状況は異なり、各島毎の福祉要求と意識には大きな違いがありました。それぞれの要求にあった施策が必要なこと、福祉施策には工夫が求められることがわかりました。

②島民が島に住み続けるためにも、福祉サービスの充実は必須

島（地域）毎に求められる福祉サービスは違っても、ほとんどの住民が共通して島に愛着や誇りを持ち、最期まで住み続けたいと思っていることがわかりました。それは移住者の方も同じでした。介護家族を支えるサービス、施設から退院した後に在宅で過ごすためのサービス、認知症対応サービス等を充実させることが住み続けるための条件となっています。

地区名	人口	対象数	回答数	回答率
竹　富	349	220	123	55.90%
黒　島	214	131	39	29.80%
小　浜	764	288	63	21.90%
新　城	13	1	1	100%
西表東部	948	499	172	34.50%
西表西部	1,538	657	285	43.40%
鳩　間	58	28	28	100%
波照間	512	310	140	45.20%
合　計	4,378	2,134	859	40.30%

③住民が主体となって福祉サービスを担う必要がある

住民が主人公として地域福祉にかかわることで、住民主体のサービスが可能となります。意見交換会では、ふれあいサロン、移動サービス、配食サービス、宿泊施設など、要望が強いサービスについて、地域住民で支えていきたいという意見もありました。

④人材の確保と育成の取り組み、福祉を考える住民の組織が必要

地域共生社会を支える人材確保と育成が最大の課題となっています。介護保険対応の事業は社会福祉法人などでもできますが、総合事業、移動サービス、サロン事業等は、地域のボランティア組織やNPOなどが担っていることから、このような組織の育成が必要です。島内で福祉の問題を考える住民の組織（会議）等を立ち上げ、住民主体の福祉のまちづくりを推進することも必要です。

次回は、島（地域）ごとの特徴などをお知らせします。

認知症講演会 in 小浜島

平成31年２月23日、小浜島デイサービスくままにおいて、認知症講演会（竹富町福祉支援課主催）が開催され、小浜診療所山田拓医師と日本認知症家族会八重山地区会長大濱敏夫氏が講演を行いました。

山田医師からは認知症は誰にでも起こり得る脳の病気であること、認知症と加齢によるもの忘れの違い、認知症の種類と特徴について説明があり、認知症予防の一つとして、地域行事や集まりに参加し他者とコミュニケーションをとることが大事との話がありました。大濱会長からは、家族の認知症介護の実体験について、外出すると帰れなくなる事や徘徊時に隣近所の助け合いで発見につながった事、島外の専門医療機関を探す苦悩などが話されました。参加者からは「家族介護の大変さや感情的にならずに対応することの難しさがあるので、知識を持つことが大事。情報を共有して、島で家族を支える環境を作りたい。」などの意見があがりました。